

試料・情報利用研究計画書(概要)

審査委員会 受付番号	2021-1011	利用 形態	共同研究	利用する 試料・情報	対象:地域住民コホート相乗り型(宮城)、三世代コホート成人参加者で、膵がん、胆道がんの既往歴を有しない者 最大約10万人 試料:なし 情報:SNPアレイ情報、既往歴
主たる研究機関	愛知医科大学			分担 研究機関	東北メディカル・メガバンク機構
研究題目	膵がん・胆道がんのリスク要因としての遺伝子多型と生活習慣との交互作用解明のための症例対照研究			研究期間	2021年10月～2024年3月
実施責任者	田宮 元	所属	東北メディカル・メガバンク機構		職位 教授
研究目的と意義	日本における2019年の膵がんの死亡数は36,356人、胆道がんの死亡数は17,924人であり、がん関連死亡の上位を占めています。愛知医科大学では、膵がん、胆のうがん(胆道がんの種類の一つ)の発症リスク要因を明らかにするために、生活習慣等の環境要因や、遺伝要因、すなわち遺伝子の個人差(遺伝子多型)と発症との関連について調べています。				
研究計画概要	愛知医科大学では、膵がん、胆のうがんの発症に関わる遺伝子の個人差について研究しており、研究の参加者から得られたDNA検体を用いて、ToMMoでジャポニカアレイ解析を行い、網羅的な遺伝子多型情報を収集します。遺伝子多型情報を取得する際に、東北メディカル・メガバンク計画のコホート調査参加者の全ゲノム解析情報をもとに作られた全ゲノムリファレンスパネルの情報を利用します。 また、発症リスクに関わる遺伝的バリエーションを網羅的に解析するゲノムワイド関連解析(GWAS)という方法により、網羅的に膵がん、胆のうがん患者とそれ以外の一般集団について遺伝子の個人差を調べます。この際、東北メディカル・メガバンク計画のコホート調査参加者のうち、成人かつ膵がんや胆道がんの既往歴のない方の遺伝子多型情報を対照として用います。				
期待される成果	この研究により、膵がんや胆道がんにかかりやすい方の早期発見や予防につながる事が期待できます。				
これまでの倫理 審査等の経過	2021年9月 愛知医科大学倫理委員会承認 2021年10月 東北メディカル・メガバンク機構倫理委員会承認				
倫理面、セキュリ ティー面への配慮	<ul style="list-style-type: none"> 人を対象とする生命科学・医学研究倫理指針のほか、別途締結する研究契約にそって実施します。 愛知医科大学より提供される検体は、当該機関において、本人より二次利用を含めた同意を取得しています。 利用する試料・情報は、ToMMoスパコン内に限った利用を行い、スパコン外へは持ち出しません。 				
その他特記事項	科学研究費助成事業				
※公開日	令和3年11月4日				